



1 区の歩みと現状・誕生・地勢



鶴見区シンボルマーク
平成3年2月14日制定

区制施行：昭和2年10月1日
〒230-0051
横浜市鶴見区鶴見中央三丁目
20番1号
TEL 045-510-1818 (代表)
FAX 045-510-1889

面積：32.38k m² (令和元年10月1日現在)
人口：292,709人 (同上)
世帯数：140,093世帯 (同上)
区民の花：サルビア (平成3年11月制定)
区の木：サルスベリ (平成9年10月制定)
マスコット：ワックン (昭和63年1月制定)

● 区の歩みと現状

鶴見区は市の北東部に位置し、昭和2年10月1日、横浜市の区制施行により誕生しました。「鶴見」の名は鎌倉時代の史料からも現れており、源頼朝がこの地で鶴を放ったという伝説からその名がついたという説もありますが、「ツル」は「鶴」とは関係なく水路や河川の周辺の地を、「ミ」は「まわり、めぐり」を意味する語で、「ツルミ」は蛇行している鶴見川の地形を表しているという説もあります。

鶴見は、江戸時代の頃から鶴見川の水運や東海道を往来する人によって、川筋や街道筋が賑わっていました。漁業が盛んだった沿岸部では、明治の頃から埋め立てが進み、京浜工業地帯の中核として日本の重化学工業を支えてきました。戦後は、高度経済成長とともに、商工業の集積と人口増加が進みました。

現在の鶴見区は、29万人を超える人口を擁し、住宅地が連なる丘陵部「丘のまち」、鶴見川に沿った「川のまち」、臨海部の「海のまち」で構成されています。

「丘のまち」には、県立三ツ池公園や獅子ヶ谷市民の森などの豊かな自然があり、四季折々の美しい景色を楽しむことができます。また、横浜市指定文化財の横溝屋敷や、横浜市認定歴史的建造物の旧澤野家長屋門(通称「馬場の赤門」)などが保全・活用され、歴史を活かしたまちづくりが行われています。

鶴見川を中心とした「川のまち」では、工場から住宅などへの利用転換が進み、工業、商業、住宅が混在するまちとなっています。外国人が多く住む国際色豊かな地域でもあり、鶴見川は、多くの区民が散歩などで親しむ鶴見区のシンボルとなっています。

臨海部の「海のまち」では、生命科学の世界的な研究施設「理化学研究所横浜キャンパス」や産学連携を推進する「横浜市産学共同研究センター」などが末広地区に整備され、国際的な一大研究拠点＝横浜サイエンスフロンティアとしての再編整備が進んでいます。



● 誕生

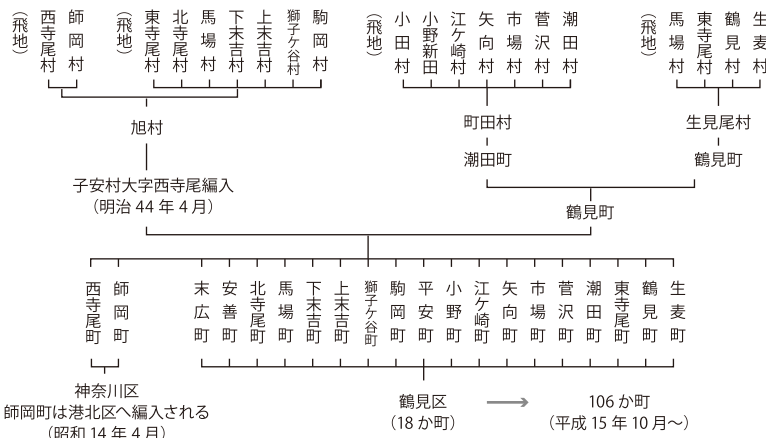
資料：「鶴見区史」鶴見区史刊行委員会・「横浜の町名」横浜市民局

神奈川県橘樹郡
(明治22年) 町村分合改称令により各村合併

(大正14年4月) 町制施行 1か町1か村になる

神奈川県横浜市
(昭和2年4月) 横浜市に編入

(昭和2年10月) 区制施行



● 地勢

- 極東：扇島
- 極西：上の宮二丁目
- 極南：大黒ふ頭
- 極北：矢向六丁目
- 最高地：馬場四丁目 (海面からの高度47.2m)

資料：「鶴見区史」鶴見区史刊行委員会・「横浜の町名」横浜市民局